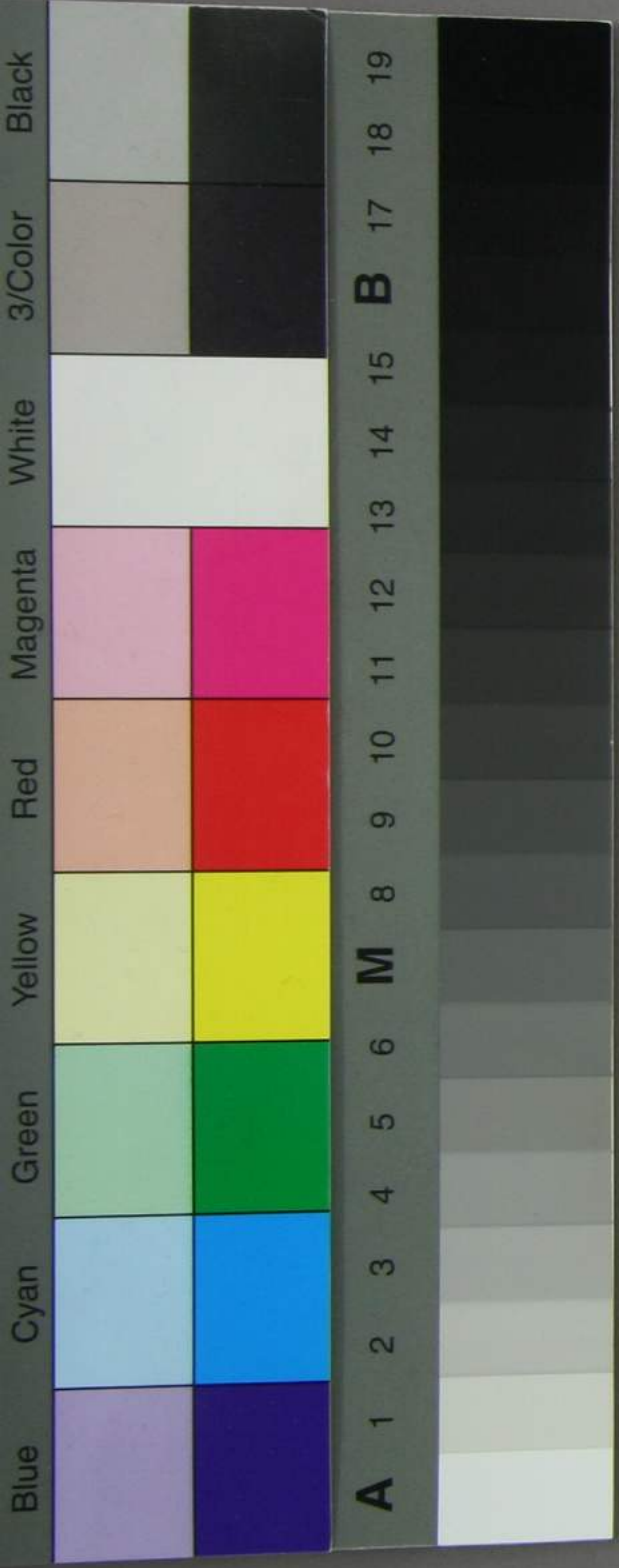




交際須知抄譯
第一章至四十二章





第七編

外交礼典

第三十八章

礼典全論

古ヨリ今ニ至ルマテ方式、尊章、特典タルヤ
 之ニ適當スル價ヲ付典ミタリキコト万々
 礼式、礼典、勲章ノ由テ生ムル所以ナリ
 今其是非ニ関ヒスミテ論セシニハ礼式ナ
 ルモノハ不要ニ属スルモノヲ除キ浮薄ナ
 ル外顔中純然タル一ノ人定ノ件ニ非サル
 ヤ明カナリ
 夷狄ノ種族中モ亦若干ノ礼儀ニ干スル方
 式、尊重ノ表章ニシテ其酋長ニ附属スル特

大正十一年四月
 大隈侯爵邸書
 贈

権アリ就中各人對等ノ権利ハ架空ノ論
ルニ過キサル所ノ文明社會ニ於テハ適宜
ノ慣習又ハ外見ノ表章ニ因リ一定セシム
違ハ自然ノ不對等ノ權利ヲ發現シ而シ
テ各種ノ部分ノ互ニ相混淆スルナリシテ
回轉スル所ノ精且巧ニ組織セシ社會ノ全
部タルヲ其相摩擦スルヲ豫防セサル可
サル諸事ノ矛盾ナルニ因リテ能ク運動ス
ルカ故ニ位階上必要ナル等級及ヒ交際上
ニ差異ヲ發シ且如ルニ尊敬服從懇親將
之ニ代ル所ノ優待佑庇ノ方式ニシテ言語
上ニ用ヒシヨリ文辭上ニ轉移セルモノヲ
生ミタリ此解義ニ從ヒテ論スルハ一定礼

典ハ後述懲戒標準トナシ以テ順序ヲ整
頓シ不遜ヲ預遏シ志意ヲ明晰ニ正理ヲ
貫徹シ概シテ之ヲ論セシニハ適宜ノ法典
又ハ例式ト謂フハキナリ
位階及ヒ職務ニ從テ分劃スル一定ノ權利
時例及ヒ慣習ニ由レハ左ノ如ク區別スハ
朝廷禮典又ハ外國禮典トハ君主及ヒ其親
族ニ係ルモノ
外交禮典トハ各其有スル所ノ等級ノ位階
ニ準シ職務ヲ実行スル交際官ニ許可スル
所ノ敬礼及ヒ特典
文書禮典トハ都テノ交際文書編制上尊號

名稱ヲ指示シ且ツ之ヲ爲メ供用スル所
ノ懇親ナル文例ヲ特示スルモ
海上礼典トハ一ノ邦國ニ屬スル船舶ニ於
テ諸君主又ハ其親族ハ對シ且文際官又ハ
使命ヲ奉スル領事等ニ對シ行フ所ノ敬禮
ヲ制定スルモノ
僧官、法官、行政官又陸軍モ亦礼式アリト云
モコレニ從ハシテ論セサルモノナリ
余ノ論スハ十部分ヲ左ノ如ク陳列ス
朝廷礼典ハ第十章内ニ掲グルル故ニ請フ
者客ノ該章ヲ一読ヤラニテ祖ニ君主ノ
文書中使用ス可キ懇詞ニ付テハ第二章第
六章中君主間往復文書ヲ參看ス可キ

海上礼典ハ第九章中前記礼典ノ次ニ列セ
リ
文書礼典一名文際文例ナルモノハ第二章
第一章内ニ列ミ如フルニ同卷中(就中條約
書中記名ニ關スル款第百十三葉)每件邦國
ノ文書編制又ハ記名ノ爲メ供用セル礼式
上必要ナル講説ヲ付セリ
外交礼典ニ於ルハ諸公使ノ推利又ハ特權
ノ條ニ次キ該章ニ列スハクコレハ礼典タ
ル中其特權及ヒ推利ニ必然根スルモノナ
リハナリ

第三十九章

文際官ノ等級及ヒ之ニ屬スル特典

使節ノ数タル巨多ニシ。且常時駐在ヲ
要スル。中兵カ。勢敵ノ相異ナル諸国ノ
公使ノ集合セシウエストハリノ會同ノ時ヨ
リシテ交際礼典ハ漸ヲ退テ多少一定ニタ
リキ
諸君主国ノ等級ノ相異ナリ其公使ノ階級
ノ相同ミカラス各政府ノ間ニ締盟セシ餘
約定約且各朝特別ノ慣習及ヒ成規ニ因リ
派遣公使ニ許可スル所ノ特典及ヒ敬礼上
巨大ノ差異ヲ挿加セリ(註)近世政界ニ因リ
歐洲諸国ノ間ニ永遠ノ交際ヲ為セシヨリ
ミテ各君主ノ間就中其公使ノ間ニ一ノ等
級ヲ設定スルヲ必要トシ而シテ此等級ハ

多クハ其君主ノ勢力ニ関涉セリ之ヨリシ
テ旧時ニ比スルハ尊称ヲ以テ至重ノモノ
トシ等級ハ爭論釁隙ノ本源トナレリ此單
一ノ問題ヨリシテ談件ハ人定万国公法ノ
區域内ニ属セルモノトスコレ礼式礼典及
ヒ敬礼ニミ関スルハ慣習法又ハ約定法
内ニ属スルヲ以テナリ若シ等級ノ一定セ
サリシ時ハ諸人皆同等ニシテ更ニ上位ヲ
占ルノ尊称ハ存セスト虽モ慣習又ハ公認
ヲ經タル所有ニ因リ一旦之ヲ設定セシニ
於テハ之ヲ再ヒ變更シ得可ラサルノ權利
トナルナリ
余ノ意匠タルハ各国礼典ノ細目ニ及ホス

ニ非ス且之ニ及ホス能ハス當タ目下諸政
府ノ普通ニ供用スル所ノ二三ノ主義ニ付
キ畧説ヲ付スルニ止マルナリ
一廷ニ駐在スル公使ニ許可セント欲スル
所ノ敬祀特典ヲ制定スルハ其君主ニ属セ
リト虽モ許すノ特權中君主及ヒ邦国ノ品
位ニ于セリト認ムル所ノ重大ナル事件ア
ルカ故ニ其主義其實際共普通ニ義認セシ
慣習外ニ出ルハ最モ注意ヲ要スハキモノ
ニシテ(註)現今將タ旧時ヨリシテ諸邦国ハ
互ニ万国結社ノ一種ヲ編ミ宛メテ巨多且
最モ混淆シタル相互ノ權利義務ヲ以テ甲
乙相聯合シ其一国ヲシテ其處分タル特ニ

自己ノ利益ノミヲ圖リ敢テ他ノ邦国固有
ノ利益ヲ損害シ又ハ其自愛ノ心ヲ破毀ス
ルヤ否ニ着目セサルカ如キ定議ヲ国内ニ
行フ能ハサルナリ公認ヲ經シ礼式ニ抵觸
スルモノハ都テ礼ヲ欠クト看做シ將タ或
ル場合ニ際シテハ一ノ凌辱ト認ム可シ
若シ其遣使ノ目的ト直接ナル關係ヲ有ス
ルニ非ス且一公使ノ公然タル性質ヲ絶テ
損害スルニアラヌ又ハ其特權ニ及底スル
ニアラサル所ノ特典ヲ付与スルハ君主ノ
意ニ出ルモノ又ハ二政府間ニ存スル所ノ
約定又ハ慣習ヨリ發スルモノト認ム可キ
(註)兩國共ニ其礼典タル全ク同一ナルハ絶

テ無キモノニシテ之カ為メ照準ス可キ普通ノ規則ハ外交官タル性質ヲ損害シ又ハ之ニ付屬セル特權ニ抵觸スヘキモノヲ制定セサルニアリ歟ノ如ク論定セシノ後ハ特例又ハ罷遇ノ件ヲ為サス同等ニ處分スルニ於テハ多少ノ特典ヲ付与シ得ヘキナリ之カ為メ爭議ノ發スルヲランニハ前記ノ主義ニヨリ裁定スヘキモノトス然リト雖モ駐在公使ニ對シ邦國ノ礼典ニ于スル爭論ト諸公使ノ間ニ生スル所ノ爭論トヲ區別セサル可ラスシテ第一ノ場合ニ於テハ公使ニ對シ普通ノ慣習ニ及シタルハ邦國ノ責任ニ歸シ第二ノ場合ニ於テハ邦

國ハ更ニ之ニ介入スルノ權利ヲ有セサルモノニシテ且之ニ介入セサルヲ以テ得策トス(註)陸軍大將「デストラード」氏カ龍動府ニ於テ以斯巴仁亞太使ヨリ凌辱ヲ受ケシ事件ニ付キテハ「凡」十四世ヨリ英國政府ニ照會ス可キモノニアラスシテ「マドリ」政府ニ談判シ其權利ヲ主張ス可カリシモノナリ

第四十章

外交官ノ間ニ設クル等級收件ハ余ニ第二章ニ於テ諸公使ノ階級ノ原論上之ヲ講述セシニ由リ爰ニ一言スハキハ只外交官ノ集會ニ於テ二國若ク

ハ数国ノ利益ヲ協議スルカ爲メ一廷ノ其
中裁トナルテ其分ハ双方共ニ之ヲ養
諾スルニ於テハ假令該国公使ノ等級ハ中
裁ニ任スル一廷ノ公使ヨリ上位ヲ占スル
モノナリトモ該廷ノ公使ハ爭論ヲ生セシ
諸国ノ公使ヨリ概シテ上位ヲ占スルト云
フニテリ

第四十一章

外交官ノ間上位ニ付キ遵奉ス可キ
順序

該件ハ本章内ニテハ最モ詳密ニ涉ラサル
可ラスト虽モ他章ニ於テハ却テ不要ニ属
スルヲ以テ余ハ勉メテ之ヲ畧説ス可シ

公ケリ礼典又ハ會談等ノ時ニ方リ来集セ
ル諸人ノ等級又ハ官職ニ従ヒ其上位ニ付
キ礼典上供用セシ順序ハ改章律ヲ引用セ
ルニ類セルナリ
紋章中セテ左ストルト唱フル植ノ部分ハ之
ニ面スル又ハ左方ニシテテキ右ストルト唱フ
る部分ハ其右方ト同シクボア貴重オ飾ラ
グルハ植ノ中ニ共トルニ在リボア低下ノ飾
ハ下部ヲ表スルモノナリ
上位モ亦之ニ同シ
君主ノ謁見所寺院祭典行列華祭ニ於テハ
帝座新額所供物蓋置植場又列ヲナシ歩行
スルハ其其中最モ貴重ナル人ヲ以テ前記

ノサントル若クハボアノラードル
地位ヲ表シ之ニ依リ以テ之ニ列スル者ハ
等級ヲ制定ス
若シ外交官ノ主タル可キ礼典ナルハ千
八百十五年維也納府ニ於テ議定セシ規則
ニ照シ其人貢ノ各個ハ其等級ニ依リボア
オノラードルナル中央ノ右ニ在ル可ク
若シ外交官ハ客ニシテ即チ單一ノ傍觀者
タル礼典ナルハ寺院内ハ高廊君主招待
ノ演劇ニハ劇場中ノ客室ノ如キ特別ナル
場所ニアル可シ
若シ二名ノ人アリ共ニ座ミ若クハ甲乙相
並ビテ歩行スルハ右ニ在ル者即チ共ニ

談話スル者ヲ其左方ニ視ル者ヲ以テ上位
トナシ若シ三名ナルハ其中央ヲ上位ト
シ中央ノ右ヲ第二位トナス
上ニ記セシモノハミニテハ尚ホ未タ上位
ノ順序等級ニ于スル慣習ヲ正解スルニ足
レリト言フ可ラスミテ他ノ詳細ノ説明ヲ
必要トス但シ暫時ノ場合ニ於テハ上下ノ別
メヲル(註)パールメルノ方タル憤怒ノ本
原タル可キ階級又ハ礼式上ノ紛議ヲ解
モリナリ故方タルハ嚴行最モ難キ諸規則
ニシテ且各個ノ自愛心ヲ損傷シ易キモノ
ニ優レルナ疑ナシ
一ノ公會又ハ集會ニ全權者ノ未識スルハ

又ハ礼典ニ係ル晚餐ノ為メ外交官ノ相會
スル中ハ其座スル所ヲ凡案ノ周圍ノ上位
ハ左ノ如ク制定ス
一凡テ圍繞シテ座スハキ第一位ハ其堂ノ
位置ノ如何ナルヲ論セス概シテ入口ノ戸
ニ面スル所又ハ其戸ハ其人ノ左右ニアル
ヲ論セス但決シテ其後ハニアル可ラス確
子窓戸ニ面スル所ヲ以テ上位トス若シ此
位置ノ如ク為シ得ハカラサル中中央ノ
上位ハ左方ヨリ日光ヲ受ケ且此位ハ座ス
ルモノハ入口ノ戸ニ背セス必ラス之ヲ視
得ハキ位置タル可シ此第一位ニ從ヒ右ヨ
リ左ニ交錯ス乃チ第二位ハ右第三ハ左第四

ハ第二ノ右第五ハ第三ノ左ト互ニ次ヲ逐
テ列スルナリ
坐歩共ニ右方ヲ以テ上位トス即チ其首ヲ
上位ヲ占ヒリト思量スル所ノモノハ下位
ノ者ノ右方ニ在ル可シ
数多ノ人甲乙相踵テ一直線ニ歩行スル中
ハ数種ノ則アリ時トシテハ衆ニ前タツ者
ヲ第一位之ニ踵ク者ヲ第二位トナシ餘之
ニ准ス時トシテハ最下ニアル者ヲ第一位
之ニ前タツモノヲ第二位トナスコレ祭典
行列ノ時用ユル所ノモノニシテ又時アリ
テハ人質ニ從テ其順序ヲ定ムルアリ即チ
若シ二名ノミナル中ハ前ニアルヲ第一位

トナシ三名ナル片ハ中央ヲ第一位前ヲ第
二位トナシ四名ナル片ハ前ニアルヲ第四位
其次ヲ第二位之ニ踵クモノヲ第一位トシ
最終ニアル者ヲ第三位トナシ若シ五名ナ
ル片ハ中央ヲ第一位トシ之ニ前クツ者ハ
第二位ニシテ中央ニ踵クモノヲ第三位ト
ナリ
若シ數人ニテ甲乙相並フ片ハ時アリテハ
其右隅又ハ其左隅ヲ以テ第一位トシ其
合ニ於テハ之ニ踵ク者ヲ第二位トナシ餘
ハ之ニ準ス時トシテハ等叙ニ因リ區別ス
ヘキ人ノ負數ニ照スアリ而シテ其數二名
九

ナル片ハ右方ヲ第一位トナシ三名ナル片
ハ高位ノ人中央ニ位シ其右方ヲ第二位左
方ヲ第三位トシ若シ四名ナル片ハ右隅ヲ
第二位之ニ踵ク者ヲ第一位左隅ニ在ル者
ヲ第四位之ニ踵ク者ヲ第三位トシ五名ナ
ル片ハ高位ノ者中央ニ在リ其右方ヲ第二
位左方ヲ第三位右隅ヲ第四位左隅ヲ最下
トシ必ラス中央又ハ上位ヨリ次ヲ逐テ列
ス可ク若シ六名以上ナル片モ其順序ハ上
ニ全シ
諸邦國ノ階級若シ相同シキ時又ハ其階級
ニ爭論ヲ生シ而シテ其全權ノ相會セサル
ヲ得サル場合ニ於テハ各個ノ論ヲ中止ス

ルカ、為メ数個ノ方法ヲ用ユヘシ例ハ各
個ノ位地ハ都テ第一位ニシテ且暫時上位
ヲ占ムルモ相互ノ推利論意ニ損害ヲ與セ
スト看做ス可ク或ハ又君主ノ年齢ニ照シ
若クハ其即位ノ長短ニ從ヒ又ハ抽籤法ニ
由リ(千七百九年丁抹法蘭土ノ二国王ノ伯
林府ニ會セシ時ハ抽籤法ヲ用ヒタリ)將タ
其公使拜命ノ日若クハ任所ニ到レル日ヲ
以テ制定ス(註千八百十四年及ヒ十五年維
納也府會同且千八百十八年エーラシヤツペ
トルノ會同ノ時ハ坐席ノ順序ヲ論セス條
約書記名ノ片ニ至リテハ諸国共ニアベセ
ノ順序ヲ以テ全權各々之ニ記載セリ)〇ウ
十

トレクト「カンブレ」ソアソシエーラ
シヤツペールニアリシ第十八世紀ノ會同ニ
シハ礼典ニ依ラス全權委員ハ等級ヲ論セ
ス集會ス可シト協議シエーラシヤツペール
集會ノ為メ千七百四十八年四月ヲ以テ外
交官規則ヲ左ノ如ク設定セリ諸集會ニハ
礼典ヲ用井スシテ開場ニ高下ナキ圓ルノ
周圍ニ集リ尊卑ヲ區別セサル議堂ニ表ル
順次ヲ以テ其坐ニ就クヘシト
公使館内ニ於テハ礼典ニ係ル尋問ニハ同
等ナル他国公使ニ一歩ヲ讓ルヘキカ故ニ
其君主ノ等級ニ關セス上位ノ礼ヲ与フコ
レ懇親及ヒ世上ノ恒例ニヨルナリ二等公

使モ亦三等公使ニ對シ此優待ヲ為ス但シ
談公使ノ間ニハ礼典ニ係ル尋問ハ甚々稀
ナルモノナリ太使及ヒ教皇使節ハ之ヨリ
下等ナル公使ヨリ礼典ニ係ル尋問ヲ為ス
片ニ於ルモ前記ノ優待ヲ讓与セス

第四十二章

駐在スル邦国ノ政府ノ高官又
ハ高貴ノ人及ヒ皇族ニ對シ外
国公使ノ等級
一君主ノ廷ニ駐在スル外交官ト其国政府ノ
高官又ハ高貴ノ人ノ間ニ發生ス可キ等級
上ノ紛議ハ談外交官ノ等級又ハ其本国及
駐在ノ兩廷間ニ存スル所ノ交際若クハ

其使用セシ恒例ニ依リテ一定ス
外交記事の中前記ノ紛議ヲ記載スルヤ一ニ
テ止マスト虽モ現今ニ於テハ第二等ニ
列スル邦国ノ君主ハ第一等ニ列スル邦国
ノ全權ニ一步ヲ讓ルノ事絶テナシ
各政府恆談ノ上帝王ノ子及ヒ兄弟ハ太使
前々ツモトス帝王ニアラサル所ノ君
主ノ親族ト太使トノ間ノ上位ノ問題ニ付
テハ今日マテ更ニ一定セルナシ
外交官ノ館内ニテハ等級ヲ有スル其国ノ
官員ハ都テ外交官ヨリ上位ヲ占ム但太使
ハ格外ニシテ談使ハ外務卿工ノミ上位ヲ
讓ルモノナリ

之ト及シ其国ノ官員又ハ高貴ノ人ノ邸屋
内ニテハ外交官ハ其国人ヨリ上位ヲ占ム
外務卿ハ格外ナリ

